

① 〇〇めに

うゑまご綴りとしたい。

② ネツ造歪曲にゐるしツテル
張りに適ひえる

彼等の批判は、「職業用紙」批判に対する論理的な
 証ではなく、我々の文章のうち痛い所を多くし、都合
 の良い所だけ誇大に引用し、成果をゴッソリ横取りし
 なみうそで自うを正当化する開會手段になさうい。

彼らの批判の才一卓は、我々も「全共斗を何ら糾弾
せざる民主的革情利をわめきにてゐる」といふこと
である。では彼らに尋ねようではないか。全共斗を真
に糾弾するとはどういふことなのぬか。それは、「全

共斗社^{キツシャ}と云へはそれでよいのか？ 否としてゐる
 はない。つまり暴力問題為例にとつて見ても、重要な
 のは、暴力を許さない状態を如何にこゝつくるか、と
 いうことであり、その時、暴力（封鎖）のある限り向

とてきつゝいとして、事實上「暴力反動」といふ言ひな
いの曰和皇主ニ以外の何物でもない。彼らと眞に糾
御する道は、彼らと正倒する新しく運動を構築するに
と、學友の目的意識的提起を保障する政策を擧げよう

のである。この観念の欠落は、結局、改革を正韓化の
彼岸に押こやり、その材料の分断と、正反の目的意識性
を、必き消する故に、正韓化の力は正反の目的意識未的要
素に主たる以外になくたものだ。そこで客觀的にはシ

争を一切封鎖を西なり。の支元に抑へ止め、定むるに對し、國內の斗争の膠着化を現象させている。6・17集會について付記するものは、我々はニエシ香の妖言にのみ、わづな、切名の増友の参加で三時間以上につたる集會を成

功さば、集會アピールを全ての學友に発している。このことは、コッソリそこに出席してゐた「全學連」の代表の「Y君」も最もよく知つてゐるはずである。この前、集會は勿論、団体の一つと組織をえない彼らと

學郎國をめぐつておきたら、事件を外から云々で
てゐるの地主を折廻るといふ能事なり。

国際学連の旗の下、第一集学連を再建せよ！

全ての民主的學友は民學共に結集せよ

